

BOOK REVIEW

書評

「生きているしくみがわかる生理学」
大橋 俊夫/河合 佳子 著 医学書院

南沢 享（日本生理学会教育委員会，東京慈恵会医科大学細胞生理学講座）

本稿の読者である生理学会員の多くの方は既に本書「生きているしくみがわかる生理学」（大橋俊夫・河合佳子著）を購入されており，著者らの体の仕組みについて語りかける，やわらかでありながら適確な文体に魅了されていることと思います。本書の素晴らしさについては本書内の推薦の序（榊原記念病院・友池仁暢先生）や医学書院の書評（<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=87741#reviewList>：北海道大学・本間研一先生，健康科学大学・鈴木敦子先生，東京大学・窪田雅之先生）によって，語り尽くされています。ここでさらに私があえて書評を重ねるのは，日本生理学会教育委員会として，生理学教育に携わる会員の皆様に，本書を教育の現場で活用して頂くことをお勧めしたいためです。

「生理学が面白いって，本当ですか？（本書風に）」生理学教員には自明な問いでも，学生達にはなかなか実感してもらえない，そんな日々を苛立ちを感じていませんか？ 多肢選択式問題はちゃんと点がとれるのに，記述問題や口頭試問をすると全くわかっていない学生達の多さに愕然としてしまうことはないですか？ そう感じたとき，本書を利用してみてください。大胆にいつしまえば，本書は非常によく練られた，からだに関する「ナゾナゾ本」です。殆どの項目が「なぜ？」と問いかけます。ヒトはナゾナゾが大好きで，本書を読むだけで，「そうだったのか！」と納得できるだ



けでも楽しくなるのですが，多くの人はもっと知りたい，と感じるはず。因みに私の一番のお気に入りには「非常口の表示が緑色なのはなぜ？」です。本書を利用することで，また，私たちが自らの「ナゾナゾ」を準備して学生に問いかけることで，生理学の面白さをより身近に（著者らの言葉でいえば，自分の体を教科書として）感じてもらい，学生達が本来持っている知的好奇心を刺激出来ると思います。いわゆる active learning への格好な副読本として推薦いたします。